

施策番号 5-1-3	施策名 地域活動の推進	基本目標	町民が主役となった自治に基づくまちづくり		
		政策名	町民が主役となった地域づくり		
	主管課	企画財政課	課長名	佐野寿行	内線 220
	施策関係課	総務課			

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図					結果	
町民の主体的な地域活動への参加を促進し、町民全体のまちづくりをすすめます。		町民	主体的に地域活動に参加する					町民全体のまちづくりに結びつける	
成果指標	説明	単位	23年度(策定時)	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度(目標)	
① 地域の活動に参加している町民の割合	住民意識調査	%	48.6	50.2	48.2	55.0	55.0	55.0	
② 町民活動支援センターの運営に満足している割合	町民活動支援センター調べ	%	未調査	63.6	83.3	80.0	80.0	80.0	
③									
成果指標設定の考え方	①前期実施計画の目標を55%としており、前期期間中45～53%程度で推移していることから引き続き55%以上を目標とする。 ②登録団体が支援センターに求めるものが多様であることから80%を目標とする。								

2. 施策の事業費

	26年度決算	27年度決算
施策事業費(千円)	66,714	56,835
人工数(業務量)	0.7883	0.6055

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①平成27年度の成果評価(前年度比較)	<input type="checkbox"/> 成果は向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	②町民活動支援センターの運営に満足している割合は昨年度を上回り目標値をクリアしているが、①地域活動に参加している町民の割合が横ばいの状況にあるため、成果は変わらなかったとした。
②平成30年度の目標値達成見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標は達成できる <input type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 <input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠(理由)	町民活動を支援する機能として設置している「町民活動支援センター」が定着してきているが、地域活動は多種多様であるが、高齢者福祉分野の地域包括ケアの視点における地域活動が期待されており、引き続き地域活動がしやすい支援体制を構築することで達成可能と考える。
(2) 施策の成果評価に対する平成27年度事務事業の総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	協働のまちづくり活動支援事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
	町民活動支援センター運営事業		
③事務事業全体の振り返り(総括)	①町民活動の拠点である地域集会施設については、昭和40～50年代に建設された建物が多く、老朽化と耐震強度不足が指摘されているため、「効果的・効率的な行政運営施策」の中で再整備方針を定めた公共施設等総合管理計画が策定された。この計画を上位として、地域集会施設再整備方針を策定した。 ②「町民活動支援センター運営事業」は、中間支援組織を目指して毎年度事業内容を検証しながら、地域活動の推進を目指した。		

(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果

	A	B	C	D	E
進捗結果				○	

※該当に○印

- A: 実現した
- B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した
- C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した
- D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない
- E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	<p>《施策を取り巻く状況》 協働のまちづくりを進めていくためには、町民が主体的に活動する環境の整備が必要であるが、町内会や老人会の加入率低下に歯止めがかからず、地域活動の前提にある地域コミュニティの希薄化が進行している。</p> <p>《今後の予測》 地域活動を支援する集会機能拠点の再整備・財政的支援・コミュニティの場づくりなどを積極的に推進していくべきである。</p>
この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか？	<p>老朽化が進んだ地域集会施設の再整備について要望がある。 協働のまちづくり活動支援事業のPR不足を指摘されている。</p>

5. 施策の課題認識(現状の課題、新たに取り組むべき課題)

<p>課題① 地域集会施設の再整備 地域集会施設再整備方針に基づき、各地域住民が主体となって施設利用の在り方を議論いただき、効率的な施設再整備が必要である。</p> <p>課題② 地域コミュニティの高齢化と希薄化 地域活動の原点である地域コミュニティに関わりたくない住民の割合が増え、町内会加入率の低下や公共サービスパートナー受託業務の辞退が表面化している。</p> <p>課題③ 高齢化の進展に対応するため地域包括ケアの取組みが重要になっているが、公的サービスに限界があり、地域住民が支え合う活動が期待されることから、町民活動支援センターの役割は益々大きなものになっている。</p>
--

6. 総合計画推進委員会(庁内評価)

評価	町民活動センターが各種団体の活動支援として根付いており、前進していると評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	町民が主体的に活動する環境の整備を地域とともに進めてほしい。	<p>A: 実現した</p> <p>B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した</p> <p>C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した</p> <p>D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない</p> <p>E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した</p>					

7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	●町民活動支援センターは活動団体にとって有用であり、現在の状況から見ても、前進していると言って良い。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	<p>●災害時には、町内会が重要な役割を果たすことから、そのような事例を周知してもらいたい。</p> <p>●町内会加入について町が直接関与することは難しいが、町内会の大切さを講演会で発信する等の方法で、加入促進をしてほしい。</p> <p>●加入促進と同時に、町内会が維持できなくなったときにどうすれば良いのかを考えてみるのも一つの方法ではないか。この問題については、多面的に考えていく必要がある。</p> <p>●町内会のあり方について、町も関与して検討してほしい。</p>	<p>A: 実現した</p> <p>B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した</p> <p>C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した</p> <p>D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない</p> <p>E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した</p>					